

1級土木施工管理技士の需要



取得した資格：1級土木施工管理技士
資格取得年度：令和元年度

やまさき こうじろう
山崎 幸二郎*

はじめに

土木施工管理技士は「建設工事における技術上の管理をつかさどるもの」として、建設業法に基づき配置が必要となる技術者のことをいいます。世間一般的には公共工事の請負業者が必要とする資格であり、われわれ建設系公務員には無縁なものであるという認識の方が多いのではないのでしょうか。少なくとも以前の私はそのような認識でありました。

資格の目的

公務員と民間事業者では、資格取得に対する目的が異なります。

民間の場合、資格を取得することによって技術面、評価面で会社に貢献出来るようになり、その分仕事が増えて給料も上がります。

これに対して公務員の仕事といえば、計画段階におけるB/C等の優先度判定や建設コンサルタントと設計協議を行いながらの発注業務など、事業のプランニング技術者としての役割が主となります。資格を取得しても給料は上がらないどころか、試験代、教材費、交通費により寧ろマイナスです。よって多くの公務員は、「資格を得るために」と同じくらい「勉強をするために」土木施工管理技士を受験していると考えられます。

資格の意義

技術検定が目的とするものは、「建設業を営む者の資質の向上、建設工事の請負契約の適正化を図ることによって、建設工事の適正な施工を確保し、発注者を保護するとともに建設業の健全な発展を促進し、もって公共の福祉の増進に寄与するため」とされています。つまり施工に関する技術のみではなく、設計計画から施工管理に至るまでの一連を管理監督する技術者を認定するものであり、建設系公務員が置かれる工事監督員としての立場上、最低限知っておかなければならない内容となっています。

また近年は、新規インフラへの社会投資が抑制されている現状もあり、これからは維持管理・補修補強工事の割合が高くなっていくことが予想されます。このような社会情勢にあっては、今後行政サイドにおいても土木施工管理技士の需要は高まると考えています。なぜなら、何もないところに新しいものを作るより、既存インフラを直したり補強したりする方が遥かに高度な技術力と現場知識を必要とするからです。

話は戻りますが、試験の検定内容は専門土木から始まり関係法規、共通工学や施工管理能力等を総合的に測るものとなっており、建設系公務員にとって土木全般を学ぶには「ちょうどいい勉強量」だと私は感じました。

*川口市 上下水道局 上水道建設課 主任

第一次検定における傾向と対策

第一次検定は、出題分野が多岐に渡るため、まずは全体を把握することが大切です。

特に専門土木においては、河川、道路、ダム、トンネル、港湾、上下水道など様々な分野に渡りますが、スーパーゼネコン勤務の方であってもすべての経験をされている方は少ないかと思います。私も当時は道路、下水道程度の経験しかありませんでした。

最初からすべてを覚えようとしてもゴールが見えず心が折れそうになることから、約1か月をかけて各項目の要点をノートに転記し全体を把握することから始めました。

特に経験がなく、イメージが出来ない分野は苦手意識が高くなります。私の場合は、鉄筋の配筋関係や専門土木の特殊工法を苦手としていました。その対策としてインターネットでの画像検索や各協会のHPに載っている工法紹介を確認することで実際の施工イメージが沸き、頭に取り込むことが出来るようになりました。様々な専門用語と向き合うこととなりますが、イメージが曖昧ではその内容を理解することは出来ません。百聞は一見にしかず、わからない用語が出てきたらとりあえず検索してモノを見ることをおすすめします。

全体を把握したところで、後はひたすら過去問を解いていきます。ここでは出題方法や傾向を押さえることがポイントです。

近年に改正があったものや制度（特に土木法規や安全管理等）については、出題される傾向にあります。

皆さんは「要求性能墜落制止用器具」という名称をご存じでしょうか。いわゆるハーネス「安全帯」のことです。私が勉強をしていた時期に労働安全衛生法施行令が改正され、法令用語としての名称が変わり、翌年の試験解答欄に長々と記入した記憶があります。

第二次検定における傾向と対策

第二次検定は、特に経験記述の対策として、文章の適合や構成はもちろん、具体性が評価されるポイントです。例えば品質管理について構造物の精度確保をテーマに書くのであれば、具体的な基準値（水平変位量〇〇mmは中止など）を入れることが大切です。また、テーマとなる管理項目については毎回ランダムとなりますが、対象工事は1つに絞りその工種の中で技術的課題の応用（例えば品質管理にも施工管理にも応用出来る課題を見つける）を行えば、試験当日でも頭が混乱せず記述することが出来るようになります。

おわりに

私が受験した年の合格者のうち公務員割合は1割程度であったと記憶しています。資格としてはまだまだ民間割合が高いという現状ですが、検定の内容や意義が理解されることで今後、公務員においてもその需要は高まると考えています。

最後になりますが、先日、私の母校である長崎県立諫早農業高校の農業土木科の生徒全員が2級土木施工管理技術検定に合格したというニュースを拝見し勇気づけられるきっかけとなりました。遠方からではありますが、皆さんのご活躍を期待しています。

私も若い力に負けないよう、これからも自己研鑽に努め、社会貢献そして地域住民のため業務に励んで参りたいと思います。

【著者紹介】 山崎 幸二郎（やまさき こうじろう）

平成21年埼玉県川口市役所に入庁（土木職）、下水道推進課で工事監督員として従事。平成26年 岩手県大槌町（災害派遣）で区画整理、防災集団移転促進事業等のまちづくりに従事。平成27年 街路事業課で都市計画道路の計画及び工事に従事。令和2年度より現職。